

# がんばれ「しんぶん」!

震災直後、不安な避難生活を明るくしようと発行されてきた、さまざまな手書き新聞、7月2日、あらたに「復興を知らせる」手書き新聞が発刊しました。

## 復興伝える こども新聞

岩手・小中学生創刊

岩手県野田村で小中学生が復興の様子取材して「こども新聞」を作っている。創刊号は約650部発行され、今月2日、子供記者たちが仮設住宅などに配った。

記者は村内の小学4年、中学1年までの約15人。創刊号では「笑顔もお店も戻ってきたよ!」との見出しで、こども新聞が始まったことや、地元菓子店が復活したことを報じている。B4判4ページで、すべて手書きだ。群馬県桐生市立境野小で編集・印刷してもらった。



住民の声を取材する子供記者(2日、岩手県野田村で)「チームともたち」提供

「こども新聞」を支援している企業経営者らでつくるボランティア団体「チームともたち」(事務局・東京都渋谷区)は、福島県内でも同様のこども新聞を作ることとを計画しており、デジタルなどの機器を募集している。問い合わせはチームともたち事務局(03・5778・4871)へ。

野田村役場近くの某ホテル「the morns」が「こども新聞社」の拠り所。  
子供が中心の活動をすすめることで、未来を見て話を進め、地域を元気づけた。  
(チームともたち岩手県野田村)



中身はこんな感じですが、手づくり感満載ですが、気合はすごいです!!

7月13日読売新聞記事  
アロア意地 石巻日日新聞社では震災直後の3月12日から電気が復旧するまでの6日間、フェルトペンで手書きの特大かべ新聞を市内64所に配布しました。



震災4日後の3月15日に創刊された伝説の「ファイト新聞」編集部の面々  
④ 気仙沼小学校避難所



あのこわい地しんからこの新聞を作ることを決めました。みなさんは気仙沼小学校で、このなん日かすごしているいろいろごふんがあるとおもいますが、みなさんもがんばりましょう! 私たちもがんばります。(創刊号あいさつ・初代編集長当時7歳)

「明るい記事だけを書く」という方針を貫いた元祖・避難所新聞、仮設住宅への入居が進み、7月3日(50号)をもって休刊しました。

ボランティア支援基金はじまりました [東部地区] ラ・ティータ西表 宇南風見 大原港ターミナル(竹富町観光協会、八重山観光フェリー) 大富売店 [西部地区] ゆりみな(上原港ターミナル) スーパー川満 西部歯科診療所 santa nu neene カフェなかゆくい ダイビングチームうなりざき 民宿ハイン館 民宿あけほの館 民宿母家 マリンロッチャアトク 西表島エコツーリズム協会 紅露工房浦内川観光 イルティフタテムラ 星砂スーパー 金城旅館  
関係作戦に引き続き募金箱を設置していただき ありがとうございます!

we support!

RQ  
市民災害  
救援センター

「東北に黒霧を送ろう! 大作戦しんぶん」改め  
復興支援「すけや」きた  
「しんぶん」